



「カテキズムの学び」

第36回「偽証してはならない」(前半)



7月28日にサクラ ファミリアの聖堂に集まった皆さんとライブ配信を視聴の皆さんとともに、十戒の第8の掟である「偽証してはならない」の前半を学びました。講座の様子は上のQRコードから視聴できます。

「偽証してはならない」は言い換えれば「嘘をついてはならない」という掟ですが、根拠になっているのは、神は「真実な方」(ローマ3・4)であり、真理を証しするために来られたキリストに倣うべきだからです。

すべてのキリスト信者は、自分が生活している場所で、模範的生活とことばのあかしをもつて、受洗に際して身につけた新しい人と、堅信によって高められた聖霊の力を現さなければなりません。(2472番)

真理に反する罪としては、偽証、悪口、中傷、へつらい、嘘などが列挙されていますが、掟としては理解しやすいものです。講座では興味深い質問を受けましたので、ご紹介します。

【問】 商売上の取引などでは、自分の側の手の内をすべて見せることはせずに交渉することも多いが、それは嘘にあたるのか。

【答】 個々のケースによって異なるが、正確な情報を公にするよう定められている場合はそうすべき。そうでない場合は、商取引上の習慣として双方が認識している範囲内で「手の内を明かさない」ことは許容範囲だが、たとえば誇大広告にあたることは許されない。

なかなか一概に基準を設けることはむずかしいですが、違法になるような場合は明らかに良くないということです。目にする宣伝では、まさに違法にならないぎりぎりの工夫がなされていると言えるでしょう。

さて、講座が終わってから面白い質問を受けました。

【問】 ウィッグ(かつら)を使うのは嘘になるか。

なかなかの難問? 嘘かどうかの判断には「知るべき相手には知るべき情報を与える」という原則があります。ですから、病気などで使用するなど正しい理由がある場合はかまわないでしょうし、年齢詐欺などのために使用するなら罪になるでしょう。

(文 酒井俊弘補佐司教)

新しくなる典礼⑥「ミサ」が変わってしまうの?

『新しい「ミサの式次第と奉献文」の変更箇所』

～ 2022年11月27日(待降節第1主日)からの実施に向けて～



奉献文(エウカリスティアの祈り)の続きです。ほとんど司祭のことばですが、少しずつ変更しています。

【感謝の典礼】 その2

【奉献文(エウカリスティアの祈り)】

◎叙唱: 司祭は、その日にふさわしい叙唱を選んで唱えます。

◎感謝の賛歌(サンクトゥス): 他の賛歌と同じく口語に変更され、ラテン語の表題が加えられました。

・「万軍の」は、戦いを連想させる表現なので変更されました。

聖なる、聖なる、聖なる神、**すべてを治める神なる主。**

主の栄光は天地に満つ。

天には神にホザンナ。

主の名によって来られるかたに賛美。

天には神にホザンナ。



第一～第四奉献文が変更されましたが、今回はよく使われる「第二奉献文」に沿って説明しましょうね。

【第二奉献文】感謝の賛歌(サンクトゥス)の後、司祭が唱えます。

まことに**聖なる神**(現行:「まことにとうとく」)すべての聖性の源である父よ、いま、**聖霊を注ぎ**、この供えものを**聖なるもの**としてください。

・司祭のことば:「割って」は「**裂いて**」に変更されます。

パンを取り、感謝をささげ、裂いて、弟子に与えて仰せになりました。

・司祭のことば:「食事の終わりに」は「**食事の後に**」に変更されます。

◎記念唱: 会衆の応唱は3種類の中から選ぶことになりました。いずれも、復活された主キリストに向けられたことばであることが分かるように訳されました。一例を紹介します。

司祭: 信仰の神秘。

会衆: **主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで。**(現行: 主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで。)

司祭: **聖なる父よ**、わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行い、**み前で**(現行: ここで)あなたに奉仕できることを感謝し、いのちのパンと救いの杯をささげます。

司祭: 世界に広がるあなたの教会を思い起こし、**教皇○○○○、わたしたちの司教○○○○、すべての奉仕者とともに**(現行: 教役者をはじめ)**あなたの民をまことの愛で満たして**(現行: 全教会を愛の完成に導いて)ください。

司祭: また、復活の希望をもって眠りについたわたしたちの**兄弟姉妹**(現行: 兄弟)と、**あなたのいつくしみのうちに亡くなったすべての人**(現行: すべての死者を)心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。**いま、ここに集う**(現行: なお)わたしたちをあわれみ、神の母おとめマリアと聖ヨセフ、使徒とすべての時代の聖人とともに、永遠のいのちにあずかせてください。

(文・絵 大阪教区典礼委員会)

「生きる」— 難民移住者

思いつめ、混乱する人

ハワさん(仮名)は夫から日常的に暴力をふるわれていました。悩んだ彼女は教会へ相談に行きました。しかし「教会では何もできない」と言われ、一人で夫の暴力に耐えていました。夫の暴力はエスカレートしてゆき、ある日、とうとう夫が刃物を振り回して警察沙汰となり、幼い子どもは児童相談所へ一時保護されました。ハワさんは相談員の助言を受けて子どもを連れて帰国しました。

数か月が経って、ハワさんはもう一度夫とやり直すため、子どもを両親に預け、



単独で日本へ戻りました。しかし夫はモラルハラスメントを繰り返して、ハワさんがどれほど懇願しても暴力をやめることはありませんでした。ある教会でのミサの後、ハワさんの体の傷に気づいた神父さんが「どうしましたか」と声をかけました。ハワさんが事情を話すと、その神父さんは彼女にシナピスの電話番号を教えました。こうしてハワさんは私たちとつながり、私たちはハワさんと一緒に区役所に行ったり、離婚調停に備えて弁護士を探したりしました。が、ことは単純ではありません。

周囲が細心の注意を払ってハワさんの身の安全確保に努めているのに、ハワさんは荷物を取りに自宅に戻ったり、夫からの電話に出るしまつたりしたものです。から、相談員とこじれてしまいました。そこで私は再びハワさんに付き添って役所へ行きました。私はハワさんのそばに座り、平易な

た神父さんが「どうしましたか」と声をかけました。ハワさんが事情を話すと、その神父さんは彼女にシナピスの電話番号を教えました。こうしてハワさんは私たちとつながり、私たちはハワさんと一緒に区役所に行ったり、離婚調停に備えて弁護士を探したりしました。が、ことは単純ではありません。

日本語で丁寧に保護の制度を説明し、役所の人には彼女の言わんとする言葉の意味を補足しました。相談員に「本気で夫と離婚する気があるのですか」と問われてハワさんは答えました。「私はカトリックだから離婚してはいけなくて」「そんな……殺されてからでは遅いのですよ」「どうしたらいいかわからない」。

ハワさんを孤立させ、追い詰め、混乱させるものは何なのか、そばの私は重い問いを突きつけられました。そしてその答えは、ハワさんにとことん向き合うことでした。思っています。

(文 シナピス事務局
ピスカルド篤子)

訃報



アンドレ・ボーガルト神父(淳心)は、7月18日、姫路聖マリア病院で悪性腫瘍のため帰天。85歳。ベルギー出身。



1961年、司祭叙階。62年来日。64年、75年に広島教区で司牧。その後ベルギーにて音楽を学び、1968年に金剛教会、91年仁豊野教会の主任司祭として司牧。97年、2008年、東京教区にて司牧。08年、淳心

会仁豊野レジデンスの院長を務めた。マザー・テレサ共労者の指導者として長年活動を続けていた。Sr.ヴェロニカ中村房枝(援助修道士)は、7月9日、腹部大動脈瘤破裂のため帰天。88歳。山口県萩市出身。奉獻生活62年。

1960年の初誓願後、養成期間を経て保育園、幼稚園、児童館の幼児クラブなどで会計事務・受付に従事し、その傍ら児童や父兄とのかわり、特に障がいのある子どもと家族をサポートすることを通して福音宣教に励んだ。小教区において、信徒と協力して毎朝のミサの準備を担当。いつも優しい笑顔で人びとと交わり、地域の人びとから愛される人柄であった。

1960年の初誓願後、養成期間を経て保育園、幼稚園、児童館の幼児クラブなどで会計事務・受付に従事し、その傍ら児童や父兄とのかわり、特に障がいのある子どもと家族をサポートすることを通して福音宣教に励んだ。小教区において、信徒と協力して毎朝のミサの準備を担当。いつも優しい笑顔で人びとと交わり、地域の人びとから愛される人柄であった。

Sr.マリア・ジェネヴィヴ・佐藤時子(聖フランシスコ病院修道女会)は7月17日、老衰のため帰天。96歳。長崎県大村市出身。奉獻生活68年。入会前に薬剤師として医療現場で働きながら受洗し修道生活

を志願。1954年10月の初誓願後は、姫路聖マリア病院、長崎聖フランシスコ病院で誠実丁寧な薬剤師、またその責任者として奉仕した。その間には管区顧問や修道院長なども歴

任。Sr.佐藤の特徴は何事に対しても上品で穏やかでいたこと、やさしい笑顔と心遣いで、出会う方々へ聖なる雰囲気を与えていた。

年10月の初誓願後は、姫路聖マリア病院、長崎聖フランシスコ病院で誠実丁寧な薬剤師、またその責任者として奉仕した。その間には管区顧問や修道院長なども歴

